

# 教採合格への道のり

浅野 央大

## 1. 教員を目指すきっかけ

私は父がもともと教員をしており、身の回りにも教員の知り合いが多くいたため、自然と将来は教員になろうと中学の頃から考えていた。そんな中で私が教員を目指そうとはっきりと思うようになったきっかけは、高校時代の部活動の顧問に憧れを持ったからである。

私は高校時代にバスケット部に所属していた。その時の顧問は、他の先生と比べて、生徒である自分たちの意見をしっかり聞いてくれる先生だった。部内で何か問題が起こった時も、先生がどうこう言うのではなく、まず自分たちがどうしたいのか、その上で、今後どうしていくのか話し合うということが多かった。それはプレーにおいてもそうで、顧問の指示ではないプレーをした時は、怒るのではなく、なぜそのプレーをしたのか聞いてくれた。また、私が怒られることを激しく嫌うことをしっかりとわかってくれており、学校生活や部活でトラブルがあるといつも、まずは意見を聞き、その上で諭すように話をしてくれた。このように、いい意味で生徒と距離が近く、生徒に寄り添うことができる、そんな教員になりたいと思った。また、生徒一人ひとりと向き合い、その生徒のためになる行動ができる教員になりたいと思った。

## 2. 教採について

私が教採の対策を始めたのは、大学4回生になってからだ。4回生になるまでは、教採の過去問やSNSで流れてくる問題を見たり、好きな分野の問題を解く程度であまり勉強していなかった。そして、4回生の4月から毎日3時間程度教職のサポート室へ行き全国の過去問を解いていた。過去問を解いていくと自分の苦手な分野がはっきりとわかり、効率的に勉強できた。また、私は漢字がとても苦手なため、漢字だけ別で問題集を用意し、重点的に勉強していた。私は、専門科目よりも一般教養の方が楽しく解くことができたため、専門科目を中心に勉強をしてその休憩として一般教養を解いていた。また、サポート室にいる友達と点数を競ったり、問題を出し合ったりして勉強に飽きないようにしていた。

しかし、毎日勉強するという生活は大学受験以来だったため、しんどくなることも少なくなかった。そんな時は、バイトの友達や地元の友達と遊びに行ったりしていた。

そんな中、教採が近づいてくると、大学で集団討議の練習や模擬授業の対策講座などがあり、積極的に参加していた。特に役立ったと感じるのは、面接練習だ。面接内容については、事前に自分で調べ、あらかじめ答えの内容などを考えておいた。しかし、練習であっても上手くはいかなかった。ただ、実際に面接官の経験がある先生方が行ってくれるため、的確なアドバイスをくれるため、どう改善していけば良いのかすぐにはわかった。

そして、私は一人で黙々と勉強するのが好きではないし、苦手なため、友達と一緒に勉強できる環境があってよかったと思う。また、同じ教員を志す友達が多くいる大学で良かったと思う。

### 3. 教員になるということ

私は今まで教員になるために勉強していたが、今からは教員として成長していくために勉強しなければいけない。中学時代からの夢が叶ったうえで、さらに努力しなければいけないというのはすごく大変だと思う。また、教員になることが目的になってしまっはいけない。私は、これから先に出会う生徒のためにできることを一生懸命していきたい。そして、教員としても、社会人としても今まで以上に努力し、さらに先の夢に繋げていきたいと思う。

### 4. これから教員を目指す方へ

私は、教員になるという夢を持って大学4年間を過ごした。その中で勉強したのは、最後の1年のうちの4カ月だ。それ以外は、遊んだりバイトしたりと自分のしたいことをして生活していた。だから、私はこの大学4年間で後悔はない。

これから教員を目指す方は、「教採どうしよう」や、「自分は教員に向いているのかな」など様々な不安があると思う。そんな時は、友達や親御さん、先生に聞くもよし、自分で悩み続けるもよし。悩むことは何も悪いことではない。ただ、後悔がないようにしてほしい。将来を考えて辛くなる時もあると思うが、そんな時こそ自分らしく、自分の好きな方を選べばいい。その選択をできるのは、自分自身だけ。一人でも多くの夢が叶うことを願う。